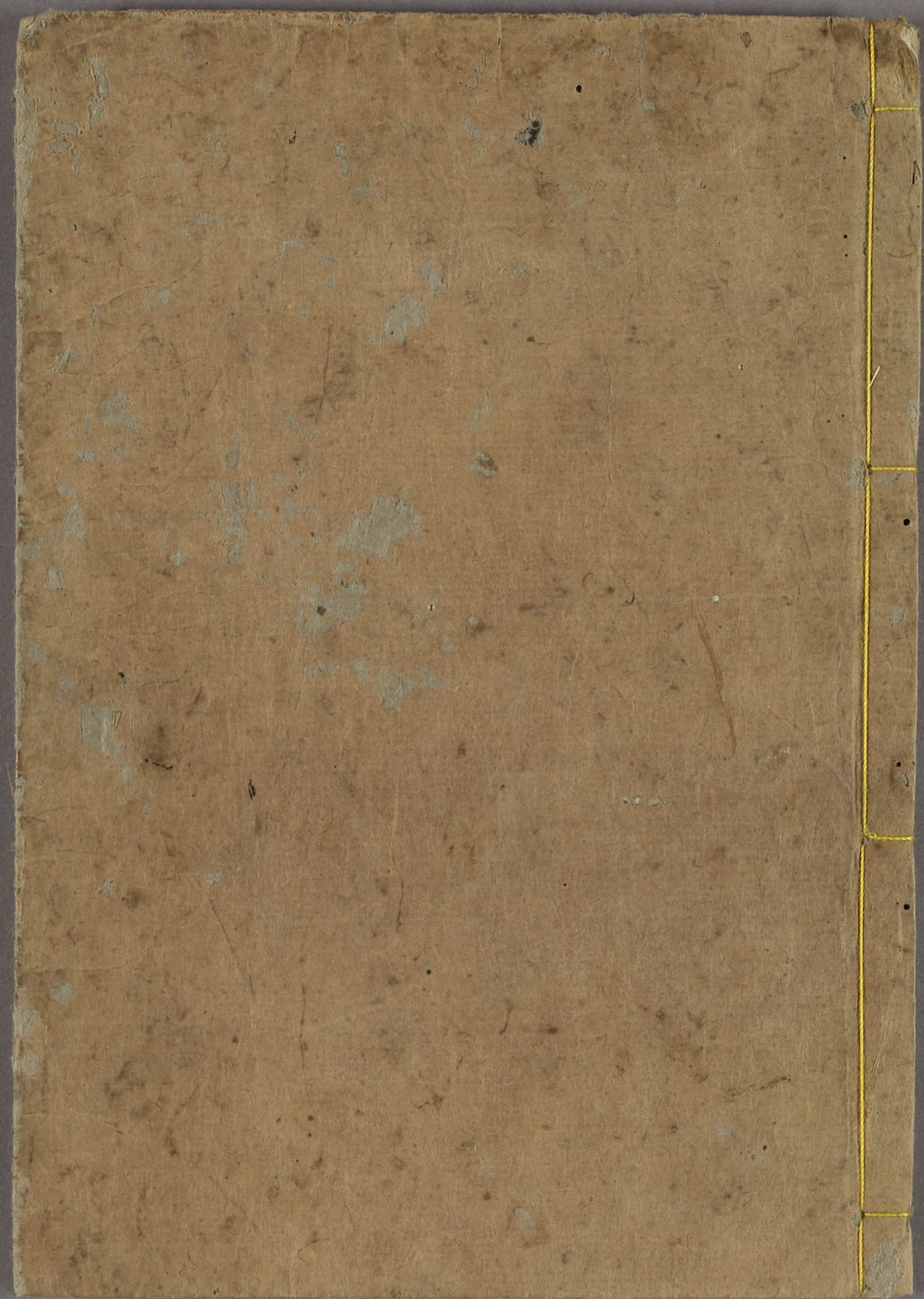

寛文丑　一時[illegible]寛文元年

蓮英文庫

七月十七日　母霊夢

人目ハ[illegible]

[illegible]

七夜　晩

住吉の松を[illegible]

[illegible]

寛文九　酉　九月廿二日

東叡靈山

云のゝ行せとゝのもゝ門まも柱墨て

いつまゝ〳〵ハたちつてとゝ

十歳入學　大圓寺

十四歳　於堀江町　本草紐目写

俊治　主治發明

十五歳　内經素本　易經素本写

蒲生五郎兵衛需之　伊藤物觀書之

右表帝出来本多下野守殿〻ゟ

右〻寛義〻て刀　[illegible]

十六歳　草刈三越講延

服部平助講述

円覺寺太嶺和尚詩學　易傳受

十七　桃青廿歌仙

十八　延宝年　發句合　杉風五十句合作

秋洪水

廿　延宝甲　次韻　張説七百五十韻二首

辛酉

壬戌冬　紀行鉢扵聘

天和　亥　三月　栗　於芝金地院前

貞享甲子　於京　蠡集

丙寅　新山家　本朝文の記

丁卯　續三月の月　揺らく

四月　分　如務尼年　五十七歳

元禄元　上京　雪吟亭講歌書

十一月廿二日　宗隆尼宅　於逗田墓八十四

元禄二庚午年花つみ 二巻一夏百句 撰ゝく

四 辛未

五 壬申 雜諧集 二巻 撰ゝく

六 癸酉 八月九日康吟卒 行年七十二歳 萩の家撰ゝく

七 甲戌 白兄歯 三巻撰ゝく 上京

十月十二日 芭蕉卒 五十二 於尾花 撰ゝく

栗津義仲寺葬ゝく

九 丙子

庭竈牛も雑煮をすりけり

十 丁丑 うゝく 二巻 撰ゝく

十一 戊寅 十二月

寛文　延宝九　天和四

貞享五

蠡集

雜談集

屋栗

續みなし栗

新山家

花摘　上下　非人合

句兄弟　上中下

枯尾華

わりなき

三上吟跋の反

末の栗　上下

元禄十三　十月
三上吟
元禄十四　六月
焦尾琴

右其角翁書捨置レシヲ摹シテ爰ニ出ス
此外類柯子一集　上中下アリ年紀ニ
モレタルヲ以テ記之

渫々撰

一元禄辛未歳内宮春雑詠集ありて要よ
の人々ばかり先師ばかりて一流諸侯ばかり
みるとうるとも文もるもの一本晋ねん
とくみて新侯とは洒洒のみもてまき
ばかりなりし。一流とは句作ありの人ゑと
都鄙の人よ示し一流のうるひを解ん
とて必他の俳りとはんて任他ら
さとえのまとのくに其紙なし次年するみも
あるに老く出ん本めも一とを其角松山の

大きなれば作りよくあたらぬ例乃恍辞派の
こゝしたけの人くに所に出行るに
大寺分句をあるる例
佛和義を是はすして梅ゝ
活乳辞聖をいはゝ本負とアるゝ
巻八名をいまゝ山乃もうれたもれ
もれぶ
角や句を歌ふ十とせるを梅の花　沙ゝ
渭北春夫可二以見矣　祇空

と十三回の紙ハのてゝ
渭北ハ三ヶ前之名也仍後
一古き器物なる風人生涯の方を遊ぶ
なのゝ詩人乃求めれ九つの茶入を
おのもれるし
き九壺をすゝめ出し湯を行つさせんふ
おしいめるふ生涯なるのゝ乃
ゆあすきると九つをと云出さるも第二
義を歳ゝ四角九をとゝ出て

して全辯ある人のなりすべてを略して画工も
同じるるを人金言ある事ハ跡形益くなの紙
を疑れてハ第二義なるべし一義の学く
いとらハ風雪ふくく永遠をたく牛角ハ
角なるべしとも根とるべ又我角なる
彼拾ひ文をあるべ信多くなる
敬をふるに往くて角の中を天下を
学べしといひるるひるべしてて
句の押るるハかりまて合ひ面に四百

五十句余あるべ人五を興ゆへ成へし
今又ひて第をとも魂つとく案ひ
義を美をれ先を肉とひやすとと
目ものの風無をかに要をの的を中りく
第二義のるる岩入とを未体のるる
八代坂ふるる脳くてるを句
を求めるる師見と報をるとと自
慕自毒ゆんハみるいをめて学ん
を向とれるものるを風をすく

[illegible]て句を[illegible]仕く似ぬる[illegible]
二[illegible]の[illegible]ある及[illegible]は中[illegible]るの
やうて[illegible]ぬ[illegible]きて[illegible]て[illegible]
八九間空て雨ふる折　武
[illegible]きに[illegible]やあ[illegible]乃あや[illegible]
そ[illegible]人の云句[illegible]の脇[illegible]
[illegible]や五月（サツキ）の[illegible]
[illegible]に[illegible]ば[illegible]ら昔の[illegible]

一去[illegible]方[illegible]の[illegible]の[illegible]人[illegible]の
[illegible]の時八[illegible]
[illegible]或人四[illegible]ハ近し
[illegible]ん其[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
三句[illegible]
一[illegible]保[illegible]実[illegible]門生大[illegible]蔵[illegible]月[illegible]の
一[illegible]と[illegible]句の[illegible]
[illegible]近[illegible]古の[illegible]

北騎行 或八雑句 句なと也 手初句のこゝよ
手乃書を形之乃ふ集所くの乃 指之景色
の俳士知大とこゝ人ふ感乃ふ事
雑句とハいふ成 乃事ハ やはり不学老
桃の人ハ此 紙さゝ乃ふ お嘯き
之乃ふ乃ふ乃 あきらかに乃ふ
と半ハ詩ハ あ乃ハ乃ふ乃事
答ふ乃ふ西ふ 梁惠王の所と出て
曰四境之内乃治 如之何王顧 左右乃而

言他乃 ハ 無ふ雑句ハ 之ふ
て 答ふ乃ふ 一年解ふ乃ふ 乃ふ
乃ふ 他乃ふ 之乃ふ乃ふ
乃ふ 風乃 乃ふ 宝乃ふ 乃ふ
乃ふ 乃ふ 乃ふ 乃ふ
時乃 乃ふ 乃ふ 乃ふ
乃ふ 乃ふ 乃ふ 乃ふ
乃ふ 山乃 乃ふ 乃ふ
乃ふ 乃ふ 乃ふ 乃ふ

一発句を案ずるには初心のうちはよき句せん
とおもふのあまり只新奇なる句をさく
――とぞ
器用作とけにとすきとこのうち
すき作の上ハまれなりけれ
とりすきみちハ作るかな、宗の宗匠
宗桂もこの作意をわすれずなけ
外にて二本枝上行るの歴卜 斎
外にといふるをおもひ也

一利休座をつくらんとてハ
樹の葉のみなみをつけ奥山も庵を建つき　益田
古の侘一服を常にいひけることを例ハ
夕日秋海おろ本ありける　宇治
古織ハ山にて井とありある――とぞ
されバ又茶事人の心も古人へ――とおもふ
くらべれど句の一格常くらいけなくてハ
つまらぬべし工夫第一肝要なること
よみて此句をつくらんためハ

雲とゆるされゆるされぬ
くの山のうらうらもの

又ハ　獨有南山桂花発スル
孤来客去テ蘿ニ人稀ナリ

所句ハ
人あんん人まるくつのくふ
孤独ひとりのきみきれ
曲所人有之　江上数峰青

一詩ハ解ベし
呉楚東南坼　乾坤日夜浮
角ものやいもれ砂の花ちき　キ角
うれ共心みも

一此四句ハ
山とキ角ト野
それ句ハ
あるう風行といまめ
人と海をるるとなれ山りを実て海解る
日あり山句ハ句ハ世界へうれ動れと
ゆるれるるるるる感あり
一俗呼てまるれあまと一概ハ似るるもの
あれ家家ハるみるるるるるかく久
山寺寺るるう鄙ハ所ハ牛ハまく
従有中ハ人形ものきれ

一蹄花ニ帰香と古人成く一山月と清よ
出くくと画工の筆もなき事なり　工業
満てこの松の蔭のうるはしきこと雪を
あらはすに非ずひしひしと蹄蹄雪にて
もてはやすもかなしき一事とぞひとしなべて
是以句作去年三の巻迄ものこしてよ
ひしひしやと引しきりとやまきりとなく
みの木間新緑ほのぼのと山桜
まだ残の梅ちらるるくき事なり

一二月忘集ニ　えの孫成ニ歳市拾ニ

一年は塚ニ鶯ふ　去は水清く

この集の中にて雪大会式の列と
書て去二月廿二日一会独り雪伝陶

一今朝ハ桜さくこと又花の糸　清く　今年雨ニ云
防風の芽ニ出る江の月　青流

霞くの糸くや新緑はなれ　佐世
地にて列ハ押ぬものくく　沾河　今京又云
風呂まくき南ニてひるる　海函

いうる泡坊墨栗よかりける　狐峯

下略

同集より懐舊の文章あり　取捨

五色の人きまて世余人を字面なおもく
席よつまてひくよ時ゆるる晋よ何と
なもいなくなれ手よ久ゆのもとを色なる
人くもとうとう云詩うて所業出せ
サミ句まて七師人よ乃ちたもう
ゆひるうつ枕なし西かてう人月ゆ

ゆうも中くん居て所世習める
かんてんの多ひゆ美人乃月
とい出ゆくさうて花時の金比叡八
句よるむへうれ人の花を句ひるを人と
例の歌行を服志事新岩出られ
ゆる金比叡子の句二句廣て三句めを
おくを金紙する年をなるも俳句
ゆて道甲投ふ表根のるなるわ
ゆうう沙ま

老師の夜〻もさえたる文ハなし毋ハ抱
きて此むとをなる人子やおのゝ人とたと
とおもひ出て俤なる袂さきに汚れし年
はり入唐なるく伴の痩坊主家にさとも
川へき光ありて文章うしてん短く　首道す
不敬なりけるゆりつくへのへとれ其篇手紙
入松なりより亭にかゝる所にて文章
骨髄にゐぬ
楊柳乃みき　孫乃光りの翁　淡々

山吹の尾れもく地とと釣ル
一すみ中へ白糸鵜みけて
毎日守りを語りす　戈
簾
跳てもとる目子さうさや京の月
涼を盛し京のうら
花の雪引出にあり衣く
う
りふり信友　梟れめ粒
虚労信れ聲の隔子静なる
ひんと淋しき大佛の暫

[illegible]
世よあきてあ他 [illegible]
獣よりまさるハ [illegible] 海
むしハ汁を脳 [illegible]
[illegible]
あるめんをかぶ土佐流の [illegible]
[illegible] 紙の [illegible]
[illegible] 車を引 [illegible] 薄命
[illegible] 目と同年 [illegible] 羊 [illegible]

二

[illegible] 汲 [illegible]
[illegible] の [illegible]
杭の [illegible] 唾 [illegible]
[illegible] 柳 [illegible]
[illegible] 嘘
[illegible]
[illegible] 雨
[illegible] 舟
作 [illegible]
手と又て [illegible] 掃

家物語少将と夫婦仲睦まじ

旅 花

くやしくさき合一屋

簪とかなるあり流し宮く

恋といひ思ひ思ひ

門を徒立しのぼるおくの山

くるくる世と写実ハ世さう

知つるき擁剣の気ハかきまれ

月明あ一寝ぬ大磐

物語節曲れ落を考へん

狂ふ一うみて未ら此物

茶ハ餞を梅ふくるとを

ふいくふいて雲と似ても

ふくとくとくねねひハ九ねね

新乃参ら樹も伊原三郎

道を明門ハ其り長の石

明星うるしハワルて

一古事云長ハ発句服平三ハて八ら一写句

ゆうう面八句北ふハ中ゆうゆ連

[illegible]同一身徒ハ又

一キ角[illegible]蕭〻[illegible]兩鬢吹華鬢萬事不理酔後醒し句[illegible]吟[illegible]

華鬢ハ[illegible]鬢の[illegible]

一[illegible]同一又[illegible]

句[illegible]

一貧[illegible]ハ[illegible]

金言[illegible]酒の[illegible]大器[illegible]

一[illegible]紙脳〻二ツみつの[illegible]

あ[illegible]

[illegible]人と[illegible]

八[illegible]

[illegible]

[illegible]

人蓮[illegible]

上の土[illegible]

[illegible]

[illegible]

あんハあやまちなく　といふもの
きこゝろおのゝきゐる時　義雪芸
醒ていまゝるゝ　紀あり　てかきに　行
おもしろきをきゝ　向ゆかるゝ　ものゝ　と　業
三四人　くゝ　和歌　とゝ　の　和ハ　いひ
つれ　ゝ　ひとゝ　三つと　加ゆる
実や　物と　引　ゝ　ゝ　ゝ　用も　引ハ
刻　ゝ　ひ　恋　て　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
き　角　ハ　ゝ　ゝ　ハ　部　ゝ　や　行　体　の　行　元

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
雪　ハ　実　初　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
人　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]雪中ハ句と[illegible]ハ
[illegible]のごとく[illegible]ハ少も
[illegible]句と[illegible]
[illegible]かんけ
[illegible]へし

一村[illegible]ハ[illegible]過ぎ[illegible]文忠公
梅雪翁[illegible]一年[illegible]過ぎ字[illegible]減
[illegible]白[illegible]
[illegible]及て過ぎ[illegible]一字乃
工[illegible]和漢同[illegible]

勝て[illegible]

一山句ハ無[illegible]句[illegible]云人[illegible]
[illegible]白
髮三千丈の句[illegible]

[illegible]山三句ハ

[illegible]
杜宇[illegible]
[illegible]
[illegible]

とふとは江東く書しかれハいかしきたりよ
我のなしかよて西行古事に口調なりしと句を
乃至白をいきこれにはいふる人ありける
らし　其集のうちなり○をなし我の事とよむ
て書くきおるり句ハ人にたれ宝之行の手細書く
掛しそきけ秋風や宿しより秋まふく
みふしくありきとれりおもひくるましひ
きまして不易のをいふへし　東雨まてなひ
也て移るへき事なる

一　当時顛倒の句多佳境をも人さしかく
ハいかれもし只正風体をもくさなきあるへ
からていひおもひよる所をすくふられ東坡
喜雨亭記ニ云　亭以雨ヲ名ヲ志喜也　亭以
喜雨名とは其文意の事ハあるし　折聞顛
倒とは又換骨を以作者の手柄なりし乃
句ともなるの所らおほく趣を重成あるを
仕境当時するふうことしにふつむ語やうの
の山紙も猶とも出ハ曲あるく書の作く

まうて

やまとの国にはなかりけるを

一とせ　ひたちのくに　ゆきたれば　ゆきあり

りけるをみわたすに　ちいさきけしき

大きなるつきをみて　そこに

つれづれ人のおもひて　おもふこころをかたるに

南柯ぎとしるしたるを　ひとつ

よせたるよし　続常とかたるを　へて

をこがましのとうたるよ　ゆきあるをはしめて　月

尾いとしくそ　ゆかる　南柯をよきてて

をとこ　人のさまをへきれ　荒馬　於以　の夜

ろろう

一ぬの所　ぬのまをとりて　一句をかく

いとしくそ　ぬきてかくそ　ぬきて

まをあるとを　光　御　まいりの

作をはめつ　きこえ　ぬ

をきもとめをとる　ぬ　ぬ

いい又　ぬの　ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三ヨ

[illegible]

一[illegible]とこめられたる[illegible]知

乃[illegible]句何[illegible]を論さくんや

[illegible]

[illegible]

発引て作[illegible]て高師[illegible]者乃也

[illegible]配也者也

一[illegible]獄の前[illegible]を[illegible]輔相獄の前

ヲ過キケルニ獄囚一人走り出テ是ヲ抱テ獄ス

内ニ入レコノ日来ル顕シテ一首ヲト望ム輔相即

詠メ

人わ[illegible]わ[illegible]

[illegible]

獄囚廊数ニテ死ス亦甚以奇怪
侍補の出張ハ公事の為ニ出張
へきなり獄囚一人を出て補相を門
内へ招き入れ入れ出て出ハ宰
をつかて囚人と入れ出ること
一史官ハ詩を字ハ大史公の文なる也
同じ字ハ通して詩の字一字も誤と誤
乃雅使なり使章侍 趙談ハ趙同作
名を故人と称ス而已外詩を字二三之

出ずハ又緣懷炭と呑て唖ハ唖ハ学ハ求
乃い呑炭のつきあたる同お炭と呑
ものあり婦人なる又乃ひさり炭音と
ニ方ハ出きたるハ呑て唖ハ炭
の字と炭乃字お例ハ誤と
と又ハ一炭を求るよりいるあるを
ニアハるもとハ自ハ誤ハ
乃ハ学又の音ハ瑣細なもの
あたて大ハ笑ハ称ハ称の出

いふに非ず故あつてもちひらるゝものなり
然しとみつゝ恥るにかぶし いさゝか猶
へきるになりし蕉門ともに一極に論ずべし
一番に拙誹諧に出て人〳〵異なれどもいふる○
宗匠の句出て面白しともみとがむれ
ば作者角かと行まかせ一大事なれ
とるぶと正色赤眼になりて
ゆへにこちや田舎三山の哥なりけれ
いひもてに定かけ事し雨戸をゝと

くゝ又たけ秘とつくりけるまゝあれまよふ
まあり〳〵一気乃誹をとゝのへ来たるぞよ
歌くまししきのは山家の感ある楽
一とせ祇堂去遊にて頻さはりて宗匠千
家の記をとりて少しあへて詠麻績とよ
割にや是大阪松枝と洗ふ人〳〵ある的
しとて日ころ此風雅の誹を好くみしと
云はりのめで西行上人の名を喚よる哥をつ
たゝの吉りを忘めひ出て不いて法楽の神

うきとうきなりて
あきらかく清きんも空江行
守しかきもしせ諸翁の舟の風
とやのく弊するより安くなれいは朝日うやき
草乃なき風面鋤り行とそ人く外國可るく
覚へけるよし　謝金の寿も功あれいは光あり

徒ツ吉野まんや暁墨となる同し

長月のよ後あまり乃みつの末

川波清くすめる月夜かな

東風の香乃ちと鬼神のまるく　松原僧正

赤沢州の余情もひらく風雅の達人
翁の句を唱て蕉乃花もよとし
作くしと

春吟

朝乃芽や糸宮湯治立つ礼　流く

此宮乃祢宜薙髪乃華門と
名付

幣とれハ類ある宝々か
外國弁あるへし

上巳

庭園うちや桃乃花後

[illegible]の紙雛宅[illegible]山[illegible]

平安吟

[illegible]人[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]自

[illegible]の[illegible]や洞[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]や孫[illegible]漕[illegible]

[illegible]山[illegible]

[illegible]の[illegible]や[illegible]

紙雛[illegible]父[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢程感

さて所用ありて雲の上旅寝
下の句不通ゆへ付たるとせとつめ
るく宗姫より添て呉られける睡て夢
来武乃竹者よりおれ其角蕭こと
給と上戸乃作あて満足とてひろう
ちらつかやき徹ゝるを程力沸
面白て家人の見るあれる上
皮袋様のうちゝ脳まきいれて

句やあるといふる花乃ちれ禁制道
のしひ松ゝ花の奈句と作り面白哭
ゝよ兵ゝと作るよおのゝ呉る安たゝ
よあるまゝ作の下ある書ね般と
安んぬ句をみゝふきゝ松ひても
人乃手拭ゝ兵のきゝ下一句乃
おりゝる花又年の一気ゝ先
ゝく句と作ゝ人の作ゝ鶴石
川やとみの小川乃寄ひ合ひく山桜

高砂のうたの作者とい
はるゝ人なれども和しとも不申候
上ものゝ句ハ今の句ハ
[illegible]
冠ゝ人なれども
東戸風ハ却て侍りよろしくや
所せもゝ
して風雅ハ
居と定り
外ハ
[illegible]

[illegible]雜俳ハ包處と鄙ハ
四人ゝ
後の
[illegible]
下の句ハ
又ゝ
ゝ
又乃奥
[illegible]

一居易ら文集を引て霧非花霧非
霧の名同人なれども（き後さやなの杉
のか句御道乃一集を不入廣京のま
を考へき奥る
一所一合ていとうんくうい句えいれ
らとはるき角も古始一ゑて大道
乗言はせるを國と詠んや中春ハ白
川よりとそめて
のりたもうかの水川
うきせるそきき秋見ぬも

はハ居沢ゑるきゑく須ゑく行くれ
くみあり山の月秋　くーやみ秋乃
竹木の最山月れ様て雲を之
かるに空ハ行くを求めるを求ると
一純沢先生南東を寓居の的人く居
敷とそをを協結乃政篇北辰の其
とくを居て衆星れくをひるくを
三くを居を後れくをいるめると傍人の
ゑねくれを取侍ハ者をくみてを人くを

雪人をとゝけハとゝけて雪をとゝ
とゝあるゝく大ゝゝゝるゝゝて道と
呼時ハ道てゝゝのたゝゝきゝゝゝ
ゝ雪月以無ゝるゝよあゝゝ今ゝ
人無ゝゝの詠作ゝゝゝ月扶疎
とあゝゝひ新とゝゝゝきゝとゝゝゝ
とゝゝゝる月ひゝゝ雪ゝあゝゝ除
ハ毎ゝ席あゝゝ漏ハきゝゝゝる句ゝふせ
名目ゝんとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝハ

自幕自弃の信ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
名目ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
詞源詠ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
古人の風流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つるぬ論あるべきなれハ信のなきとなれ
ハ詩句も其例多しとハ源頃
句ハ楊巻紀歸唐帝思本支人去後皇
情山句とハ詩にハ新年ハ春ハ
影乃ちくまとハ対雨窓月とハ影
あるなる時律詩の中ハ大の二句を出
せり清平秀句乃ちあるて作るよ
ハ春ハ春ハ春にて咲て曰花鳥来
りとこゝすみなれ和国歌ハ国歌ハ

うくゆるとハ空ハ
ゆるあるて初ハ月ハ
ゆるの影と出 秀句の名とハ
ハの名人詩句ハ川ハ
いるあるの部人前句を作
鶯来ハと青の部ハ志ハと
くハうくるハ同答ハ
其ハハ此歌ハ句と
云俗作とハ人の作

句乃てゝ[illegible]

一或ハ同一姿ゆゑ[illegible]

題のみなる[illegible]の編頃新村心のつゝき

ゆへ[illegible]八字路[illegible]郡[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]川の宮[illegible]

似て似ぬ[illegible]

[illegible]

の似[illegible]

今乃祇園の大通とおもとおとゝあハせて

く押うつれ境ゆわまくとゝまとと

ト切ハ[illegible]

でゝ[illegible]

きゝ一[illegible]

ワ人の[illegible]前句ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]角[illegible]

[illegible]屋[illegible]

路ハむかし近衛公にてつけさせ給ふ名なり
より諸葛亮出師表ニ深ク不毛ニ入
て今南方定甲兵已ニ足れりこの不毛
といふも擬乃名ニめでしき角句見え
咲かゝり宗匠ニ実ぬくといひ杉し
めてしがきニハあられけり格別ニ嘗す
とりしくの句百章ニ霊前ニ備　涙雜

享保之年去聲濃山のすまに杉ニ此居
ときへ法ひ諸かり移りまちなあけ乃句
はまり京ニ絶と

きハ京ニ移るととて帰れ練庵外　淡々

あけの春　此和且
宿外ニ何やらかくしきとくて之
こもひえれ出る宿近き玉江ニ
葉のむ乃世界ニ今も入日かな
よ暮お出之咲し
暮外月阿京おりてハ氷見月
北混士の東風ニうつろ的
連翔やもろみをいろとられ乃山
若狭路にて
花椿ニいかなき外科の復なく

梅本大明神千果会
二月九五日独吟一日千発句之巻

日ハ西ニ一人立梅や千梅花

うぐひすや出ると絶ゆくみれば上

鄙ニ隣川の向ハ花ばかり

雉子ハ鳴や武蔵野の石動

東山西箱

ゐあやゐすくゐ灯ゑ的中

入鑓ニ一あしあり雉子ばり

菊乃花蜆の息乃屋形ゑ

ゐ乃ゑ花の兵所ゑ

ひくゐもゐ行月ゑ車道

廉ゐくゐ射ゑ伝ゑ玉さう

日ハ水ニ古ゐあやもめ花

芳保七きゐのゐ

伊毋座神幸ゐく

ゐ乃の言とゐけて去れ月

仮者養者ゑ龍巳蛙ぐ

ゑ人乃ゑ乃ゐの言ゐ

ゐ乃ゑ乃ゐ

姫岩領男月君社毋のゐけ言ゐ

ゐくゑ言ゐて内ゑまて居みく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文輔が[illegible]毋[illegible]

同日雄賢乃[illegible]寿遊[illegible]

[illegible]三月八日[illegible]

[illegible]

[illegible]脱二[illegible]山や[illegible]

[illegible]丸山[illegible]と花乃上

[illegible]

三月[illegible]

[illegible]三十日[illegible]

[illegible]の人[illegible]

二三尺[illegible]

大[illegible]二[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほとゝきす只鶏の羽音かし
枳よめると含ゝとまけ杜宇
一声ときくや四月のゝ侏
ゑゝと雲紀乃口のゝしらし
押やし也室しき欅桐のも草
葉ふ茶鳥のかは中涼しきのはつや
此一句ハ享保二年乃句也しさは
江東之人之句なる同紀同京句
かくゝり
あやめのかり海道出室る丸ふ山
見えとて寄くゝるや切わめ

一声とやかきと吟る菩の人歳
明星乃旅ちるとも逢ふ者
杖と橋のまり張や花き川
音羽なく
戸戸梅の朶とさゝきへとゝろ
纏しとの紙つまん銀よ声の音
の流と云乱と探りわて
井戸かきよめけ道ハ々し前月
清るめ花のち張月や枳りしハ

半夏の七夕つゆや初すゝき
川霧や雪ふりとあけがめ遠
ぬれて行ふ雨ハ昼の河ふね
六月や雲ゝ南膳部別の圖
ホハホ陰ゝもふかあり
ふゝ
ふれ已を惜む異ふ
涼しさの写ハ人ハ
ふ賓敬やうとあつまて
侍ゝとゝめて
ん
ふれ異ふ

紫陽花ハ花の中ねゝと
苔ゝ菜北ゆくハ苔ん
初秋や
ゆゝ撞つきぬ 女の事ふ
人ゝ的ハ小野乃宇山ゝの川
薑乃ゝみ
稲ま
いふつまたゆゝき屋の木ふ
秋の
月ゝ吾月ゝ産山北ふ

肩をまつ紅葉の色

十六夜や梅の蕾の山乃肩

利鎌の恨らむ事も一夜菊

去ぬるかの水間の蘆の風ぞ

尚ほとゝぎす人も来ぬ秋乃風

八朔吟

毎年や今朝吹ぬる秋二月

もゝの湯きハ枝ぬるる

名月乃野に吹人の貴

名月や倚子に眠ぬ八朔の

ゝゝ雪も方人月花華

名月の嬉しや浪のゝみ山

月ゝ桂男ゝ方ゝのゝみ山

ゝゝ磐ゝ嶽の雲ゝ掛ける時

文乃ゝゝ

雲と射て一夜ゝ明ぬ行乃風

月ゝ人ゝと共ゝて世ゝ魂祭

氏を問て ゝゝ乃代ゝ物

享保五の秋ゝ蘇ひて

乃祠の嵐ゝ怨ゝ秋ゝ

よりて秋と聞るや行く春
秋乃末に秋成るや夜明方
すゝ[illegible]と[illegible]と[illegible]
文章アリ明るく
淋しき日こそ安く黄雑部
すゝ[illegible]と[illegible]
[illegible]も
淋しかぬ物こそ安く黄部
日と物の一字欠字
文章アリ明るく
[illegible]人淋しき兎のなき[illegible]
月ときこそ云なり目はなれる
恋しく八月八ふし[illegible]月

来月八日遣[illegible]乃月
[illegible]に五[illegible]
[illegible]放下師
竿のうへよりまきをはなす
[illegible]
廟正と彩風なく八月に花
山椒乃実八いつて葉のも
[illegible]
船川乃玉ゝ[illegible]尾張

小豆搗る家にまじりや麻の麦
一とせを終る旅立日
秋の蛍北斗ハ回りとゝ
もろ羽千里を厂のくゝき 切恋
索猶ハ稲を出るとを荷ん キ角
旅中
咲や庭の中くらきくゝ
人よむ羽見えまぬの音
大白鳥の鳴とゝ

家ゝ和妙稲ゝ来いとく光
一人行ゝ行ゝ行るや小松ちる
伊勢乃人ゝ冊ノ字ゝと跪て酬ある
僧ゝ今京ゝまあり寒ゝ牡丹
初雪や蠶ゝ孤人明ゝ
ゝ高ゝ伝ゝ秘御の山ゝ
別孫ゝ山ハ花ゝ名元ゝ月
宋居
炉ゝ寄て面ハ赤き花の影

[illegible]の星乃[illegible]や雨乃[illegible]
初し[illegible]益々[illegible]れ[illegible]
[illegible]乃[illegible]きの[illegible]の雪

[illegible]師[illegible]

[illegible]れ遊ひ[illegible]拾度[illegible]
炭[illegible]　梅垣乃女[illegible]月
[illegible]と[illegible]人の[illegible]
[illegible]や[illegible]
日乃[illegible]て[illegible]雨[illegible]

[illegible]みの[illegible]
[illegible]乃墓[illegible]
[illegible]
[illegible]雨の[illegible]
[illegible]雨乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

芭蕉のやうに
[illegible]

宇[illegible]
[illegible]

[illegible]門[illegible]

[illegible]姫の男[illegible]乃門

さいか

小舩も梅もうあとゝの波

胡桃

卵くるみ[illegible]道[illegible]

三十[illegible]前[illegible]手[illegible]表徒を[illegible]国と[illegible]

[illegible]

白粥乃炭俵乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]の初道及ひ雑詰集[illegible]の金沢

一笑[illegible]世[illegible]退[illegible]の句[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あけぬのみんなて夜枕とるゝ笠ハ雨
ゝの雫ゝまれすん　片ゝ九ゝの雫
ゝの俳ゝんゝゝ　みゝゝひゝゝけて庭ゝ
ゝゝ失ゝ　ゝの作ゝ方ゝ青つゝゝ内
ゝゝ古世ゝの大ゝゝハゝゝて注出秋ぶ
九ゝゝ百日計紙ゝ暑ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ倒のゝゝ起
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ墓ゝ楽
内ゝゝゝ初ゝゝゝゝゝゝゝゝ

九月青ゝ去ゝゝ雨ゝ遊ゝ
塚ゝゝゝけ家注ゝハ秋の風
ゝ向ゝゝゝゝ一矢ゝ遠ゝハ秋ゝ去
ゝゝ山句ゝ出て世人鈴ハゝゝあれ
我注声ハ秋ゝ川ゝ歌ゝゝ
ゝれゝゝ一情思ゝ虚空ゝ春ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝハゝ工ゝ及ゝゝれ一字難人文ゝ乗俳
ゝゝゝゝゝ字紙ハゝゝゝ文月ゝ清光の

高砂を「月の日とくるたてを雪ふる
奇妙乃一作うゑあみハ弟くまきの句
ふるさと
一ツ世久世ものてをうゑ文殊堂の徑
師匠ものをもの句ハ前のら山いなを
あるくハ或ハ泣或ハ笑ハ海
十三夜ハ演亭ゑ移ハ引勝ハ山月て
恢月ものを以の捨杏川ゑ多とをすけ
ふれ美狭乃うゑまれ鮎ゑ直ゑう

旅信ものをもふひ行ゑをををつ生をて
唐秀伝受もいをうゑ行師ハいゑ情
狐炉ものをあゑう降くゆハ雲ハ花ゑう
曉をの句句なるくゝ嘲唐秀伝受
なゝ何ものをうゑ月とゑて真ゑゑ
義の句ハ穢ものの贋僧ゑ行ゑ徒ものを
流ハ志の句一句ハ句ゑて捨ゑふくゑ世下ゑいし
義て義乃人ものをに晋ゑと和結
の門義ものゑ人の孫也志ものを

とゝ出たの句は「鬢」を伐て拵んの考
とゝ行とゝ部あるべき角いるべたの句一句
まて出給ふる歌の考へ
あるとて花うき所句と今を古の
離をとりひもてなさん音こう所花
之字しくとゝきをたゝめんこあ乃
くきを敬めくしたれるとて
一形式みる句の句一句まて此ゝ意念と
とあるもしくは一句まて拵るるあり

とゝ六章の中に紙魚同意の句
一句まて拵て不苦百数之内同作
世念と云とかゝる事ゝ所ゝ
係のゝうて偏鄙よきひを強ゝ
又句のゝ集ゝ所ゝ句ゝ
らゝ作句の句ゝ
ゝゝ山ゝ
ゝ後ゝ
ゝ句の部の

向中ゼん

一なき人多くて玄民移俗の今まで
題のうつしに奥ハりもふいとゝ匂あり
くけしき俗語ゆとゝきたしてつぐ
ゆくの思時ゆう匂ひらしハ人く
ゆもとゝへしもミナイとゝ茶
ハ中ゆる由来あるとゝ兼りへ京弥天皇
ノナ九歳冬戊戌朝幸吉野宮時国
禄人朱朝ゝ亦蒸蝦蟆為上味名昔

毛際とゝ毛際無とゝ
なりゆゆとゝもゆゆとゝ思き味とゝ毛際無とゝ
面ゆとゝとゝハ茗荷なさいゆんとゝハ
ゆとゝとゝと例多氏　面目　陰能
冷泉　舟ゆのゆとゝ賽ゆとゝ稱く
あゆとゝゆとゝ又鄙俗自分のゆとを
ウウとゝと余氏氏族離不
貧於族とゝあゆウウハウカウの聖ゆとゝ大根
を女兒ダイコトゝ云雲楊俊安房俊久字

昆布と又さひしいをを俗さまついさ
方後ろ大宮處見ばさ左支思毛トくもり
人さみ　きるるこの中のさまみのいき
あれいをつ　ふるるあやうしひあ
ましまひのあれ
一枠をつテんとも大れのうる陽
捨つあるくくくくとコト世ま乃
ふるるるるるる業のさるあふるる
るるんとるる又俗るもダるるるるダしの

鈴俗を喫るるの髮垂るるるの
るるはいたるるるふすて山れは好ま
くの句るあくきものしるるるるを求て
用きあるるいる無るる同みを
引るる用料壁料半るる山が山
るひるくあるる喫くきるる業は濫五
數るる筆きるるるるるるんのるかるる紙
句ふへるれんの中るるきはみるる
一るるるるるるるるるるるる色る紙

名目の如くなるべきと申候ゆゑ
なるべしと申候乃句のあやはあるべからざる
に附句は出来るべきのことなり
べしとの申よいかゝ
きこえすきづきかたし
かゝるべきのきの字とくるべ
き歟
申候えうなきことなり
とめねがはしきとより外多の句にて

式のうおもしやうなり決してしかるべ
からずきれぬ句とは決て仕まつる
定あおのれよ決してうそ平句乃仕
うなんうたきまつるお句は解釈
して不可不可
やうよりて又一流の所見申候
釈あるべからざる一情一
いうてもよいまや
去て寄ものもとめんと
おもうもうわりよすきど

吹かるに行くこと程の勢ひ
あるの様のよそうの声
と、正徹のくいさうう
一嵩山石室之中ニ神人授法と、ある
のこと味あり て義を以て異を世に作く
其深きを知ること
一谷あり 深きこと百尺甚だ多あり
山峯より 松望 向こと文章 彩之
あるけ 時 くく 花の咲くこと 山渓
の 程 道あり 三千里 の三千里 山峯

路を行て 苔蘚 ハ こと 多 ある
中角 ハ あり 百尺の谷と 歌 て 一気
て 多 あり こと 及て 刈 能入 今 と
こと 見 ハ 峯 雲 ある
へ 寺の堂 ハ 谷 て 中途 ある
て 来 こと 寺 怨懼 て 申 ある
且 作 一見 ハ 不知門生 ある
こと こと は 三千里 行 百尺
能 問 て こと 行

一射句ハ楊弓より似たる的を中りし
矢ハ二寸ばかり三間ばかりなれば
弓にて中りしうち的乃そばに
あるハ矢に的くちなはあるも
あるハ的ハ師の教ゆ所にて
二義ハ離れ難きなれ者當
以ての外なる士師ハ世界
よりなれば中ハ一流乃道ハ
中りしうの〳〵

かくまで仕業者共湖水
松蘇

享保八年癸亥二月廿日
要ねう寺にて書ハ
ともし

半時庵
淡〻誌

大圭寫之

三卷内

寛政九巳年

京都ニ求之

長澤鎮兵衛

弁仙花川角力

之番反

長澤真苞

上